

計画2 〈産業振興部会〉

産業振興・地域資源を活用したまち



1) 地域資源の掘り起こしと活用に関すること

- ・新しい特産品を開発して6次産業化(生産・加工・流通・販売)を目指します。
- ・インターネット等を利用して、室根の魅力情報を発信します。

2) 農林業・商工業の振興に関すること

- ・農林業・商工業等の体験を通し、地域外から人材を受け入れる等の取り組みを支援し、各業の振興、従事者不足の解消に努めます。

3) 資源・人材等の情報発信に関すること

- ・空き家の活用を図るため、空き家情報を発信します。

計画3 〈文化交流部会〉

地域間・世代間の交流を通し人や文化を育むまち



1) 全世代間が参画・参加の地域コミュニティの活性化に関すること

- ・スポーツ、音楽等、地域住民が参加しやすいイベントの開催を支援します。
- ・趣味やサークル活動を支援し、地域住民の充実した交流事業を推進します。

2) 伝統行事等文化の継承に関すること

- ・室根地域の歴史、産業、文化等について子どもたちに知ってもらい伝えていくための記録を作成します。
- ・室根神社大祭については地域と連携を図りながら支援に努めます。
- ・文化芸能団体等への支援を図ります。

3) 地域イベントを通じた他地域との交流に関すること

- ・田舎暮らし体験等、都会からの受け入れを積極的に行います。
- ・地区内外と交流出来るイベントを実施し、交流人口を増やします。

室根地域づくり計画

つど むろね
～集い語らい「力合わせてみんなで創ろう」豊かな室根!～



〒029-1201 岩手県一関市室根町折壁字大里201-1
電話: 0191-64-2347(代表) FAX: 0191-64-3044
E-mail: murone-machikyo@helen.ocn.ne.jp
WEB: <https://murone-machikyo.com/>



室根まちづくり協議会
一関市室根市民センター
公式サイト

令和3年4月
室根まちづくり協議会

つど むろね
～集い語らい「力合わせてみんなで創ろう」豊かな室根!～

1 実施期間

令和3年4月1日～令和8年3月31日（5カ年計画）

2 まちづくりの基本構想

将来像と目指す目標

子どもたちが大人になったとき、今よりももっと「室根が好き」と言ってくれるまちを目指して、みんなが笑顔で力を合わせてまちづくりに取り組んでいきます。

ひとりひとりの笑顔が明るく輝く夢を創り、温かな思いが夢を繋ぎ、人を呼び、どこよりも〈住みたいまち室根町〉を創ります。

基本目標

- 1 安全で安心な暮らしができるまち
- 2 産業振興・地域資源を活用したまち
- 3 地域間・世代間の交流を通し人や文化を育むまち



3 まちづくり計画

豊かな室根町の将来像を実現するため3つの計画を柱とし、分野ごとに事業を区分し、全体並びにそれぞれの部会で計画した事業に取り組んでいきます。

(1) 全体計画と取り組み内容

- ① 室根の5つの地区（浜横沢、折壁、上折壁、釘子、津谷川）ごとに行政機関を交えての話し合いにより、各地区並びに室根地域全体の問題と課題を把握し、情報共有して問題の解決を目指します。
 - ・地区ごとに、行政機関を加えた情報交換会を実施し、それぞれの地区並びに室根地域全体の現状と課題を把握し、問題の解決を目指します。
- ② 地域住民が自慢できる安全で安心な住みやすいまち、そして若者が集いみんなで支え合う活気のある地域づくりを目指します。
 - ・生活を豊かにする地域コミュニティづくりの取り組みを支援します。
 - ・地域や人を思いやる心を育み、地域福祉を担う人づくりを推進します。
 - ・若者主体によるイベントの開催並びに若者たちの交流の場づくりを目指します。
- ③ 閉校校舎（東・西両小学校）の有効活用を目指します。
 - ・地域自治会や若者達の交流並びに活動の場としての有効活用を検討します。

(2) 分野別計画と具体的な取り組み

計画1 〈生活福祉部会〉

安全で安心な暮らしができるまち



1) 地域福祉・防災に関すること

- ・一人暮らし、高齢者等への見守り、支え合いの体制づくりの取り組みを支援します。
- ・買い物、病院等、地域に即した移動手段の確保に向けた取り組みを支援します。
- ・サロン等の未設置地区の解消に努め、その活動の充実、活性化の取り組みを支援します。
- ・各自治会のハザードマップ等作成を支援して、防災意識高揚と被害減少に努めます。

2) 健康に関すること

- ・健康増進のため運動の習慣化推進に努めます。
- ・生活習慣病の予防等、健康を意識した食生活改善運動を進めます。

3) 子どもの健全育成に関すること

- ・新室根小学校開校により、安全で安心な通学路整備の取り組みを支援します。
- ・子育て世代の情報共有、交流の機会を設けます。